

道府 県名	課程 番号	現場の声
北海道	①	管内求人が少なすぎる。特に女子の求人が少ない。
	③	生徒は地元こだわるので、就職が決まらない。道内で雇ってくれそうな企業は皆無。道外は生徒が希望しない。
	④	*総合学科になってから就職希望者が増えた。*男女ともに管内希望者が増え、希望職種に対しての求人数が少ない。*経済的理由で進学から就職へ変更せざるを得ない生徒もいる。
	②	進学希望であったが、経済的に難しく就職に進路変更をする生徒が必ず出てくる。
	①	地元志向が強いが、地元求人は少なく、未決定者が出ると予想される。
	②	3年生全体の2/3が就職希望。そのほとんどが経済的理由で進学ができない。
	②	生活保護家庭の生徒は「家から離れた就職」が条件で求職している(保護費の減額になるため)。そのような生徒は在学中に運転免許も取得できず、家庭からの支援も期待できず、必然的に寮のある職場を探す。職種は選べない状態。
	①	十勝管内の求人数が大幅減少。現在の金融不況に加え、FTA交渉や農政によって農業経済が極めて不安定。十勝では農家経済の波及効果が大きいいため雇用には及ぼす影響大。こんなことは数年来なかった。
	③	派遣労働は断固廃止してほしい。日本中の若者が山谷のドヤ街に送られる思いがする。若者に希望がない国は必ず滅びる。役人は頭は良いが人の気持ちがわからない。
	①②	都市部では地方の女子学生を避ける傾向が見られる。優秀な生徒にチャンスも与えられず、悔しい思いをしている。
	①	生徒も少ないので困難はない。しかし「契約期間を1年。その後未定」が増えている。
	①	生徒が親の経済的状況を把握しておらず、ぎりぎりになって進路変更する生徒が増加してきている。
	⑤	生徒の実態や雇用情勢の厳しさから2学期内に内定をもらえなかった場合の進路変更が大変なため、かなり計画性を持ってすすめていく必要がある。
	青森	①
⑤		進路開拓に必要な旅費を増やしてほしい。また障害を持つ生徒が安定的に雇用していただけるような環境づくりをしてほしい。
①		県内は就職がきびしい状況が続く様子。
①		離職率が高く、毎年求人が出されるにもかかわらず、一向に待遇の改善がなされず、就職した生徒がすぐ辞めてしまう企業がある。毎年同じことの繰り返しである。
④		県内求人は買い手市場のため、採用後においても長時間労働や低賃金雇用になっていて、そのことが早期離職につながっているケースもあると見受けられる。実態調査を模索中。
②		求人数が不足(特に県内)
②		昨年より県内求人が減り、生徒の希望職種が少ない。就職内定率の上昇が、これから期待できない。
②		経済不安にとまなう、次年度の雇用状況が心配である。企業の対応等を含め様子を見ていく必要がある。
②		県内就職が非常にきびしい。大企業への工業誘致・地方分散に関する国の支援が望まれる。
③		発達障害者の雇用は非常にきびしい。雇用促進する上で職業訓練等が必要で、現在、学校卒業と同時にニートになっている。
⑤		障害者雇用の拡大を希望します。
⑤		車椅子で働ける職場が非常に少ない。
①②		青森市内の求人がとても少ない。県内八戸市の1/5、弘前市の1/2程度。
①②		県内求人が減少、状況がきびしい中、その対応に苦慮している。県外就職・進学を勧めるも難しい。
岩手	①②	高額費のため、進学したくてもできない生徒が少なくない。そのような生徒は就職へのモチベーションが低く指導も困難である。
	①②	求人数は県外の理美容・飲食業が目立った。内定率として接客業が非常に悪かった。
	①	事務職が減少。女子の採用がきびしい。
秋田	①	地元の求人が少なく苦慮している。県外への希望に変更している生徒が多い。
	①	県内求人が少なく、生徒の希望職種の求人がない。中には、とりあえず仕事に就く生徒もあり、希望の職種に就けない生徒もいる。

道府県名	課程番号	現場の声
秋田	①	経済的理由による進路変更2件。公務員希望が多い、地元の消防などは決定時期が遅く、生徒が気の毒である。
	④	希望する職種の求人がないので進学への進路変更あり。地元求人を増やせないものか。
	④	今後の経済状況が不安である。
山形	①	求人数が減っている。
	①②	採用計画の見直し、厳選採用の強化、昨年度は人物評価までに留まっていた企業が、今年度は、人物評価+学力評価まで見ている。
	①	*経済的理由による進学から就職への変更。*自分で進路を決められないタイプの生徒が出てきている。
福島	④	経済的理由により、進路変更する生徒が増えた。
	①	学力不足で不合格になる生徒も多い。
	②	特に深刻な問題はない。進学を含め、無理をしなければ希望を達成できる。
	②	*地元採用は昨年よりきびしくなっている傾向。*面接では社会(会社)で自分がどう役割を果たせるかなど、従来より突っ込んだ内容で聞かれる。
	①	進学を希望していても、家庭での経済状況が困難である生徒が目立って多い。
茨城	①	生徒の希望が事務にかたよっているが求人数は少ない。経済的理由などで進学から就職にきりかえる生徒への対応に苦慮。
	①②	アメリカの金融危機により、高校生の就職活動に大きな影響が出ている。求人票が10月からほとんどゼロで、未決定者を2桁抱える本校では現在大苦戦を強いられている。
	①	昨年より不合格の生徒が増えた。事務職希望、欠席の多い生徒が決まらない。
	①	保護者の経済的理由による進学断念。製造業において、求人数ではなく、「よい生徒ならば採用」方式のため、学力の低い生徒は不採用の結果となり、次の応募先がない。
	①	求人数が多く生徒の就職活動には有利であった。不安定雇用問題の新聞報道の影響か問題に関連した企業の求人が増加した。
	①	就職試験で不合格になった生徒の2つめの受験先をさがすのがむずかしい。
	④	入社試験で不採用になった生徒がやる気を失い、「アルバイトでいい」と考える傾向がある。
	③	進学希望の生徒が、経済的理由によって、就職に希望を変更するケースが目立つ。
	③	地元企業からの求人がない。追加募集の段階で応募しているのが現状。
群馬	⑤	夏以降の経済状況の変化により、求人事業所数が減少傾向にある。
	②	現時点では問題点は感じていないが、就職差別や不安定雇用については、アンテナを高めて監視していきたい。
埼玉	③	*今年度はさいたま市管内のみ良いらしいが、来年度は危ないとのこと。*求人票には載せていないのに、第2次・3次面接を課す会社が出てきた。ひどい会社は、9月に試験希望を受け付けておきながら、11月になっても試験をやらない会社もある。
	①②	進学を希望していたのに、経済的事情で急に進路変更する生徒が増加している。求人が減っているので、うまく就職先が見つかるか不安である。
	①	9月以降の求人数は激減。
神奈川	③	*内定取り消しはまだないが心配している。*「就職・進学以外」の生徒はそのままフリーター・アルバイトになっていることが予想される。*生徒の就職希望は増えているが、力がともなわない場合もあり、応募まで至らない生徒が多い。
	②	就職未決定者の多くがパート・アルバイトのいわゆるフリーターとして卒業する事になると危惧している。欠席も多く学業への意欲も低い生徒たちで勤労意欲も少ない。このような無気力な生徒たちをどう指導していけばいいのか、対策は考えられていない。
	②	女子の事務職希望が多いが求人は少ない。他の職種を薦めるが希望しない。
	①	求人取消は会社倒産のため。進学・就職以外の生徒は卒業を目標とする生徒。
	①	*例年就職希望は0~1名だったが、不況や家庭の問題が影響して、本年は4名。*就職の入り口を派遣から始めさせる雇用形態が広がる傾向を感じる。
	②	本校は理美容学校だが、他の職種からの求人票も届くようになった。
	①	7月以降、進学希望者が経済的理由で就職に変わる例が10件以上出ている。
山梨	②	今年の求人は、金融危機の影響を受けなかったが今後が問題。採用取消や、かつて自動車メーカーであった「採用待機」などが出てくるのが心配。
	③	求人は職安を通じて来る。まれに直接来校もあるがごくわずか。指定校があり本校はほとんど指定されていない。昨年はひどかったが、今年は内定数が多く生徒・教員の努力が見られる。
	⑤	雇用してくれそうな企業の数が少なく、就職希望があっても内定までいきつかない。

道府県名	課程番号	現場の声
山梨	④	9月応募開始の企業で、試験日まで1ヶ月以上待たされたケースがあった。統一応募期の日程的な枠組みづくりが必要である。
	②	本年度は求人数や内定状況が昨年度と同様で何とか収まることができた。求人取り消しが1件でており、これから内定取り消しがでないことを祈っている。来年度はきびしいだろう。
	②	大企業の人選が、昨年度よりきびしくなっている。高卒者に要求する中身が濃くなってきているように感じる(タフさがほしい等)。
	①	就職に対する意識が薄く、就職試験に対する準備に欠ける生徒が少し見られる。
新潟	①	本校の生徒が関わっている企業では求人取り消しはないが、求人取り消し、また採用人数が満たないまま充足を出している企業が目立つようになった。今後が心配される。
	①	成績はそこそこ良く、生活態度もきちんとしているのに、地味でPR下手な生徒が苦戦している。企業の要求と、教師が望ましいと考える生徒像にはギャップがあるのだろうが、悔しい気持ちになる。
	①②	コミュニケーション能力に欠ける生徒は何社受験しても内定しない。家庭の経済的理由で進学できなく、就職になる生徒が年々多くなっている。
	①②	今年の求人は昨年とほぼ同じであったが、充足や打ち切りが例年より早く、不景気の風を感じられる。未内定の生徒の指導を早めにしないと「就職できず」という生徒が出てきそうで不安である。
	②	1回目の試験で8割ほど内定したが、その後2回目も不合格となる生徒も複数あり、内定に時間がかかっている。
	③	女子の求人が大変少なく、応募しても高倍率。
	③	求人減少の影響が大きい。
富山	①②	解雇しやすくする条件を、会社側が新たに設ける傾向にあるような気がする。
	①	*女子の求人数が減った。不況の影響だと思うが、とても困っている。 *採用予定が無いのに求人票を出す。面接時に親の職業などを聞く。就職ルールを把握していない企業がある。 *市内での就職を希望する生徒が多いが、求人数が減っている。事務の求人がほとんど来ない。 *今年度は就職試験で落ちてくる生徒が多く、次の行き先を探すのに苦労している。 *事務職の求人数減が著しく、来年度以降が心配。
	②	*1次の不採用者が昨年の倍になった。元気がない、学科試験が悪いなどの理由。昨年までのような「誰でも良い」ということはなくなった。来年はかなりきびしい状況になると予想される。
	③	*安易に就職を希望する生徒に、職業観や社会人としての心構えなどを指導するのに大変時間がかかった。
	④	*自衛隊の勧誘がすさまじく、8月上旬に3名の男子が玄関先で願書を書かされた。写真もその場で撮られ、全員入隊が決定した。 *アルバイト先に就職したいという生徒がいたが、同じ職種、同じ地域で本人の望む正規の求人を見つけるのに苦労した。 *9月以降の求人が激減。1次不合格者の求人が極端に少なくなった。就職試験日の遅い会社があった。
	①	予想できた部分もあるが、内定状況は苦戦した。基礎学力・志望の動機・コミュニケーション能力等、生徒自身もよい勉強になったようだ。「働くことの実態・意義・仕事を通してどの様に生きていくのか」などをいろいろ考えさせたい。「働くこと」がより身近なものになるようなとり組みが大切。
	①②	*例年より不採用者が多い。*企業が量より質の志向へ。*試験から合否通知までかなりの時間を要した会社があった。*親の失業により、進学から就職に進路変更したケースが出てきた。
	①	製造業での求人が少なく、未決定者が多く、苦しい。
	③	就職を希望する生徒に続けて案内や指導をおこなっている。
	②	一度失敗した後の次の応募が大変難しかった。景気悪化による求人取り消しが多かった。
長野	①	県外求人は昨年から100件減。景気の悪化は、昨年から始まっていたと思われる。景気悪化が高校生の求人に直接反映されるような構造は変えていってほしい。
	②③	商業科女子は、事務職希望が多いが、求人が減少しているため、製造業にまわる生徒もいた。

道府県名	課程番号	現場の声
長野	①	発達障害の生徒の就職はきわめて難しい。
	①	*1次と2次間の期間が長く、内定がだいぶ遅れるケースがあった。*試験日程の通知や内定状況の通知など、問い合わせなければ連絡の来ないケースがあり困った。
	②③	*8月以降の求人が昨年に比べて激減した。*家計の苦況を理由に就職を希望する生徒が増えた。
	①	求人票の提出方法を知らない企業や試験日・合否結果をなかなか通知してくれない企業がある。
	②③	今年は求人数がやや減少したが問題はなかった。来年度はかなりきびしくなりそうな気がする。
	②	1次が不合格となって2次へ応募するが求人がとても少ない。
	②	7月末の有効求人倍率が全県1.08倍(昨年1.18倍)の中で、中信地区0.68倍と特にきびしい状況である。
	①	*アルバイト感覚で職選びをしている生徒が多かった。労働者の権利についても知識が乏しい。学校での教育の必要性がある。*学力不足、経済格差。*使い捨てと思われる雇用状況がある。
	③	3名の生徒が就職試験を受験したが、3名とも不採用になった。定時制であることの不利益がなかったか調査中。
	①	*管内求人はずっと少ないが、希望者に対しては好意的に採用してもらっている。*経済面で進学希望者が就職にまわるケースが多かった。なかなか進路を決断できなくてズルズルと延びる生徒が増えつつある。
①	求人票の職種が調理・理美容・介護などの定着率の悪いものに限られている。とくに、県外は顕著である。	
①	*求人取消してきたり、減らしてきた企業が数社あるが、連絡のあったところはむしろ良心的。*募集人数も減り、採用のハードルも高くなっている。面接や筆記試験で求められる基準が上がっている。不登校等欠席の多い生徒・学習障害や低学力の生徒はかなりきびしい。*家庭の経済的状況がきびしく、進学から就職に進路変更してくる生徒が出てきた。希望者は増え求人数は減。特に自動車免許も取れない場合、職種も通勤範囲もかなり限られつつきびしい。	
岐阜	①②④	景気が不安定になり、求人状況が予想できない中での就職指導となっている。
	⑤	不安定雇用求人だが、公務員及びそれに準じる職種の場合、障害者を安易に解雇できないし転勤もないため、お勧めしているのが現状である。
	②	面接試験においてルール違反もあるが、とりあげにくい。
	③	求人そのものがほとんどこないで、昨年度との比較で増減はわからない。
	②	縁故による就職が多かった。1次選考不合格者が例年に比して多かった。
	②	*地元企業の支えがあって、ほぼ希望する職種で内定している。*経済的理由で進学を断念する生徒も少なくないが、地理的な条件も影響しているケースも多いと思われる。
静岡	③	不安定雇用でない職場を望む生徒は多いが、元々求人は少なく、生徒側も具体的努力に欠ける。結果的に卒業後もアルバイト生活を続ける…というのがここ最近の傾向である。合同企業説明会があるのでそこへの参加を強く指導している。
	②	今年度の求人は何処も基本給が増加している。最近の経済状況を考えると先行きが不安である。また、3年生になっても進路を決めかねる生徒が増えてきている。
	①	昨年度は就職後、数ヶ月で辞める生徒が多かった。本人の話では、最初の話と違う仕事をやらされたとか、条件が違うといった不満があった。
	④	人手が足りない年末年始に研修と称し(時給は払うが)、手伝わせる例があった。
愛知	②	求人のない職種や本人に不向きな職種を生徒が希望する。
	②	求人人数は、昨年と比べ二次の追加募集がかなり少なくなっている。内定状況は多くの生徒が内定をいただき、ありがたく思っているが、面接重視の傾向と、筆記試験ではSPIの導入がかなり進んだと感じた。
	②	職業観を生徒にいかにかた持たせるかが課題。休日の条件を第一に、就職先を選ぶ生徒が増えてきているように思う。
	②	大手企業や福利厚生面、給与、休日等諸条件の良い企業の希望が多く、またそれら企業に複数内定している。本年度は景気の後退と言われながら、それら企業に何とか内定できたが、来年度以降、大手企業の求人が減少することは避けられないので、地元の中小企業への求人を大切に、応募させたい。

道府県名	課程番号	現場の声
愛知	②	中小メーカーを中心に、製造職の採用が厳しい。希望職種に固執したり、学校からの指導を嫌う生徒が増加。
	②	経済の冷え込みが原因で、9月以降求人がほとんどない。景気の動向に左右されない安定した求人を企業に望む。高卒の採用に関しては、学校だけではなく、企業も育てることを前提とした採用をお願いしたい。
	②	10月以降、求人が多くなっている。今年は何とかなりそうだったが、来年度以降が心配。
	②	8月以降、景気の影響で求人が伸び悩み、採用意欲が低下しているように感じる。今年はまだよい状態で乗り切れたが、来年が心配である。
	②	今年度は、女子生徒に対する求人が少ない。「男女雇用機会均等法」について問題を感じる。明確に男子の求人なのか女子の求人なのかを打ち出してもらいたい。女子を送ると男子が必要だと不合格にするケースがある。この件では、現場で本当に困っている。以前のように入社票に「男・女・不問」という欄があった方がいいくらい。
	①②	就職試験の日程を1ヶ月以上延ばし、合否も大幅に遅れ、不合格となった件があった。受験申し込みから合否まで1ヶ月半を要した。11月・12月までずれ込まないように、合否を早く出してほしい。
滋賀	②	*企業の採用意欲が高かったこともあり、就職内定状況は良い。*家庭の経済的事情により、進学から就職へ変更する生徒が何人かいる。
	①②	フリーター等の不安定雇用については、本校の場合、希望してそうした職に就くものもあるので、やむを得ず不安定雇用に就く場合と分けて調査する必要がある。
	①	*昨年度より採用選考基準が一般的にきつくなっている感がある。不採用者が倍増した。 *10月の金融不安以降、企業の新卒採用意欲が急激に落ち込んだ感がある。
	①	*今年度は特に学力のない生徒の不採用が目立ち、基礎的な学力を3年間でどう身に付けさせるかが課題になっている。さらに、就職に対して意識の低い生徒もあり、職業観・勤労観の育成が急がれる。*夏休みに行なわれる企業見学の引率教員の確保が難しく、進学指導と就職指導の両立の困難さも痛感している。
京都	①	*10月上旬に1次選考があり不採用だった例がある。多くの企業の2次選考に間に合わず、非常に苦労した。*入社日が3月9日という企業があり、困惑している。
	①	*就職希望生徒のほとんどが家庭の経済的理由。*景気後退にともなう内定取消や来年度の求人が心配。
	③	指定校求人が少ないため公開求人での求職となり、地元での求職がしにくい。
	②③	*経済的事情による進学から就職への進路変更が多い。*生徒自身の将来に対する考え方の甘さから、就職したがる傾向がある。*コミュニケーション能力が足りなくて不調に終わる例が多い。
	②③	製造・運輸は(求人・内定)好調である。女子の応募業種が限られているが、概ね内定を得ている。
	②	② 本年は良かったが来年からが心配である。これから内定取消があるかもと心配している。 ② 進学希望者が経済状況で就職に進路変更した。 ② 基礎学力不足、コミュニケーション能力のない生徒が内定をもらえない。
大阪	②	学費の件で進学を断念し、2次の時期に就職に変える生徒が2~3名いる。本校は古い工業高校で地元をはじめ多くの企業とのつながりがあり、大きな問題となるような事例にたまたま遭遇していないだけと考えている。
	①	女子が希望している職種(事務・販売)の求人が少なく、女子の未定者の指導が困難。経済状況の悪化により、今後、内定取消が出てこないか心配である。
	④	不安定雇用求人が増加しているのが気になる。
	②	選別がきびしくなっている。経済的理由により進学できない生徒がいる。
	①	女子の就職がきびしい。福祉の希望者が少ない。
	③	7月半ばから求人が急に絶え、9月末から不合格が出始め、募集打ち切りもでている。景況感がこれから、未決定や次年度の生徒にきびしい風を吹かすのではないかと心配している。
兵庫	②	*不採用の理由が不明確な場合、指導がしにくい。*次年度以降の採用計画に不安を感じる。
	③	リーマンブラザーズの破綻以来、求人状況が急速に厳しさを増している。
	①	事務の仕事などが無いため、やむなく専門学校へ行かねばならなかったり、派遣の仕事に就かねばならないのが現状。

道府県名	課程番号	現場の声
兵庫	①	*正規の就職ルート(学校推薦)に乗らない生徒がいる。親子ともにフリーターでよいとのこと、正規採用の道を選ばない。*定着率は良くない。せっかく就職しても半年内に辞めてしまうものもある。*生徒・親が就職したい・させたいと思う企業の求人は決して多くない。
	①	女子の希望が多い、事務やアパレルなどの販売は派遣や違約社員が多く、求人が少ない。企業が高校生に求める仕事と生徒の希望が一致しない(女子)。
	①	女子の事務職希望が多くあるが、求人が少なく、他校とも集中し、きびしい状況である。
	①	求人件数はそれほど減っていないが、求人数は減少。かねてからお世話になっている大企業なども採用人数が減っており、本校も影響を受けた。
	①	男子の製造現場の求人だけは十分にある。男子もそれ以外の分野の就職は難しい。女子は求人自体が非常に少なく、選択の余地の無い状況である。
	①	*今年度は介護関係の職種の求人が増えたが、本校ではまったく希望者が出なかった。*本校では本人・保護者の希望する企業・職種にできるだけ対応できるよう、求人票の届かなかった企業にも問い合わせをして可能な限り送付してもらったので、内定に関することでの問題は生じていない。
	①	*京阪神での就職がきびしい(競争に勝てない)。*地元は過去のつながりで少々学力が低くても採用してくれる。*求人企業は変わらないが、求人数が減少している。
	⑤	就職先はハローワークに紹介をしていただいているが、障害のある生徒を受け入れている企業が少なく、本人がいろいろな条件の中から選択し職場を決定することが難しい。
	⑤	*本校は県下全域の生徒を対象としておりハローワークの支援が欠かせない。ハローワークに紹介してもらえるかどうかの差が大きく、生徒の就労へ向けた取り組みに差がある。*軽度の知的障害を対象としているため、合同面接会等ではなく、本校で懇話会を実施し本人の特性を理解して、マッチする職種をお願いしたい。
	①	多くの女子が希望する事務職の求人がほとんど無い状態である。
①	島内外の製造業における求人数の増加が見られるが、景気の動向により来年度の求人が心配である。	
和歌山	①	事務の求人がない。
	③	*地元企業からの求人が減少している。地域経済や地域社会に次第に影響が出てくることを懸念している。*高校卒業予定者への求人では派遣の求人は規制すべきであろう。
	①	就労意欲の高い生徒及び基礎学力を身に付けた生徒・コミュニケーション能力のある生徒は採用されていく。その点で言えば、底辺校に困難が集中していく現状は看過できない。
	③	*指定校求人なし、公開求人のみ。*進路意識が低く、低学力、欠席多し、高校を卒業することが最大の目的。*家庭生活から意識を変える指導が必要。*現在のパート・アルバイトを引き続きやってみようと考えている。
	④	*女子の求人が少ない。*基礎学力の低下。*コミュニケーション能力の不足。*離職率の増加。
	①②	*生徒は地元の事務及び販売を希望しているが、地元の求人が減少しているため、応募先がないのが現状である。*ジョブサポートティーチャー等がいれば、求人開拓や企業との連絡など迅速に対応できると思われる。全高校への配置を望む。
島根	①	就職内定は、23人中、県内14人、県外8人、自衛隊が1人。
広島	①	福祉、医療、教育等の充実した方策に伴う、雇用の拡大。ワークシェアリング等の画期的な方策を国家的にすすめる必要がある。
岡山	①②	*第1次において不合格の生徒が昨年より増加。*新規の企業の求人が増加。*ある企業への複数受験が増加。
	①②	*昨年度に比べて選考がシビアになってきている。*基礎学力の不足、コミュニケーション能力が不足している生徒は内定が取れない。
	①	進学から就職へ:学費の問題、本人の学習意欲の減退、進路決定が遅い(指導時に、自分の事として真剣に取り組めていない)
	①	県外の求人数が昨年と比べ減少している。本校では、事務・販売を希望する生徒が多いが、その職種の求人は少ない。
	①②	景気の動向が不安定で、今年度は10月に入って募集の停止を申し出る企業が増えだした。昨年までは二次募集で目も向けてもらえなかった企業にまでなだれ込みが始まっている。
	①	求人の状況は、昨年度と同じくらいで良い方だと思う。来年からは減ることが予想されるので、心配。
	⑤	課題は、職場開拓の強化と就労定着への支援ネットワークづくり。

道府県名	課程番号	現場の声
岡山	⑤	内定を早く出していただきたいのだが、実習を重ねてもなかなかはっきりとした返事をいただけないケースがあり、心配になる。知的障害者を雇用する会社の事情もあると思うので無理は言えない。
	②	1次募集では、求人数はますますあるが、1次不合格者の2次応募先が、昨年度に比べ少ない(現時点)。
	①②	新規学卒者の事務職の求人を増やしてほしい。
	①②	事務職の求人が少なく、競争倍率が上がっているため、成績上位者でも、なかなか内定を得ることが出来ない。
	①	*女子の事務職に対する求人数が激減している。*はっきりしない理由での欠席日数が多い生徒について、内定を取り付けることはやはり難しい。
	④	不合格の際に丁寧に電話連絡や来校などしてくれる事業所もあるが、多くは紙切れ1枚で終わり。担当者として(受験した生徒もだと思えます)知りたいことは、不合格の理由。先方は「言われぬが花」と温情のつもりかもしれないが、「欠席数が多いので」とか「一般常識テストで基準点に満たなかった」とか「面接時に積極的な姿勢が見られなかった」と知らせてくれる方が親切だし、有り難い。何故落ちた(落とされた)のだろうと担任と頭をひねる場合もある。不合格の理由が分かれば、次に向けて何に注意し、どこをどうしたらいいのかの指標になる。
	③	新規高卒者への求人意欲は高く、求人数は増加しているが、就職希望者の希望勤務地がほとんど井笠地域に限られていることと、就職への意識が低い生徒が多くいることが本校での進路指導上の問題となっている。
	②	求人に地域差があり、県北は地元就職が出来ない。県南に就職するも、寮などが無い場合が多く、非常に厳しい。事務・販売等の職種は相変わらず少ない。
	②	*女性に対する求人が少ない。*中途採用の場合になかなか正規採用にしてもらえない。
	②④	10月以降、世界規模での経済大混乱により、企業の求人意欲は大きく低下した。来年度の求人は、大きく減少すると考えられ、非常に不安である。
⑤	障害のある人が一般就労するには、周りの人々の支援を必要とするため、職場や地域での理解が不可欠になる。一人ひとりの適性に応じて開拓をするため、専門性を要する。現在の就業支援アドバイザー職員の配当時間の拡大と専門性のある方の確保をお願いしたい。	
山口	①	女子の内定状況がきびしい。
	②	景気後退による来年度の求人数減が心配。
	②	生徒の実態を考えると、高校においても総合支援学校における職場実習のような形態がとれないものかと思う。
	④	販売は、正規社員の求人がほとんどない。高卒資格では本人の希望の職業の求人がない場合が多い。
	②	サービス残業を強要する。
	①②	女子生徒が希望する求人が少ない。欠席過多の生徒の受け入れ先がない。まじめでおとなしい生徒がなかなか内定しない。
	①②	今年は特に、国際情勢に影響された求人動向であった。来年への影響が懸念される。
香川	⑤	法定雇用率があるため、障害児学校への求人はそこそこある。しかし、今年の世界不況のあおりにより、来年度以降の求人減の影響は、やはり障害者に一番に来るとされる。来年が心配である。
	③	1企業の業績に関わらずグローバル化経済の中で煽り倒産が増えているのが不安である。
愛媛	②	女子の未内定者が多く困っている。実際には雇用の機会は均等ではない。女子に不利。
高知	①②	家庭の事情により進学から就職へ進路変更する生徒は、就職の意欲が無く大変なことがある。県内の女性の職種が少ない。
佐賀	①	女子の求人の少なさと、それに伴いアルバイト希望者が増加。
	②③	*今年の県内中小企業等の企業状況から判断して、来年度の県内求人には不安を感じている。*定時制の場合は、直接定時制に求人を出してくれる企業がほとんどないので、全日制の求人に頼っている。*4年生になっても、なかなか就職に対して本気にならない(時間がかかり過ぎる)。
	②	建設系の求人が少ない。土木関係の学科があるがほとんど求人がないため他産業に就職している。
	③	企業からの直接求人の問い合わせはなく、斡旋業者からの資料の送付が多い。
長崎	①	男子で自動車関係を希望する生徒が多いが、求人が限られている上に減少傾向にある。また、女子の選択できる大企業がない。